

## 第3回 社会教育委員会議 議事概要

### 1 議事

#### (1) 報告事項

第3次札幌市生涯学習推進構想の令和4年度実施状況について

#### (2) 協議事項

子どもの体験活動の推進について

#### (3) その他

### 2 日時

令和6年(2024年)1月17日(水)10時00分～12時00分

### 3 場所

S T V北2条ビル6階 教育委員会A・B会議室

### 4 出席者

#### (1) 委員(出席8名)

出口委員、片岡委員、小田島委員、小野寺委員、松岡委員、  
今泉委員、安田委員、臼井委員

#### (2) 事務局(6名)

木村生涯学習部長、大瀬生涯学習推進課長、  
早坂生涯学習係長、山下職員、国奥職員、三井職員

### 5 開催形態

公開(マスコミ関係者1名傍聴:北海道通信社1名)

### 6 会議内容

#### 【配布資料】

資料1-1:第3次札幌市生涯学習推進構想 令和4年度実施報告資料

資料1-2:第3次札幌市生涯学習推進構想 関連事業実施状況調査票

資料2 :子どもの体験活動の推進について

(1) 報告事項

ア 第3次札幌市生涯学習推進構想の令和4年度実施状況について  
事務局から、資料1-1及び1-2を用いて第3次札幌市生涯学習推進構想の令和4年度実施状況について説明

イ 主な質疑応答

・資料1-1（令和4年度実施報告）にて、生涯学習をしている人の中で、現在の学習や活動の環境に満足している人の割合が目標値70.0%まであと13%程度とのお話だったが、市民にアンケートをとる際、住所も回答項目となっているのか？回答項目となっている場合、大規模区では区役所に行きたくても行けない方の利便性の問題と満足度なんかをクロス集計されているようであれば教えていただきたい。（片岡委員）

→住所については回答項目となっていない。（早坂係長）

・性別や年齢は回答項目となっているのか？（出口議長）

→回答項目となっている。その他、基本事項として、世帯形態（一人暮らし、夫婦など）、家族構成、出身地（札幌かそれ以外か）、札幌での居住年数、現在の住まいでの居住年数を回答項目としている。（早坂係長）

・区役所から離れたところにお住まいの市民の満足度を高めていくことは中々難しいことだと思うが、説明にもあったようにオンラインの活用などにより、目標値に近づける努力はできるのかなと感じた。（片岡委員）

・アンケートの結果をどう施策に活かすのかということ考えたときに片岡委員のご指摘は非常にポイントを押さえていると感じた。（出口委員）

・本日の資料はどちらも公開されるのか？（出口委員）

→どちらも公開となる。（早坂係長）

・アンケートについては、片岡委員のお話にもあったように、地域で考えたときに満足していない人がどの辺におられるのかということと市民のニーズに合った取組が行われているのかを把握できるものであるべき。資料1-2（関連事業実施状況調査票）においても、○が付いていれば良いということではなく、市民目線で施策が行われているのかという視点で整理していただけたらと思う。（出口委員）

→本構想は令和8年度までの計画であり、令和9年度からは新たな計画に切り替わることとなるが、令和8年度の改訂作業に先立って令和7年度中に改めてアンケート調査を実施する予定となっている。質問項目は令和4年度に行ったアンケートと同じような内容で経年比較をす

ることになるかと思うが、細々とした部分の設問の見直しが必要だ  
と思うので、本日ご発言いただいたことも含めて検討させていただく。  
(早坂係長)

(3) 協議事項

第1回会議にて承認された今年度の協議テーマ（子どもの体験活動の推進）に関して、第3回では「体験活動の質の向上を図ること」をテーマにと  
して、子どもが達成感や学び、連帯感を感じられるプログラムの作成とそれ  
らを実行にするにあたり必要とされる指導者及び行政の役割について熟議  
いただいた。

ア グループ構成

- ① 出口委員、臼井委員、安田委員、松岡委員
- ② 片岡委員、小田島委員、小野寺委員、今泉委員

イ 各班からのアイデア、意見等

- ① 札幌の地域資源を活かしてどのような体験ができるか
  - ・地域の川原や公園の清掃ボランティア
  - ・地域の方の自慢話を聞く会
  - ・福祉除雪への参加
  - ・天文台での天文教室
  - ・高校、大学の授業体験や学生との交流
  - ・市内に住む外国人との交流
  - ・大学を活用した宿泊体験
  - ・雪あそび
  - ・農業体験
  - ・地域のお年寄りとの昔遊び
  - ・近隣の学校同士の交流教室
  - ・歴史ツアー
  - ・野外炊事体験
  - ・自然散策、登山
  - ・育児体験
  - ・秘密基地づくり
  - ・職業体験
  - ・登山
  - ・地域マップづくり
  - ・動物とのふれあい体験
  - ・川遊び（ラフティングなど）
- ② 子どもが達成感や学び、連帯感を感じられるプログラムの実施にあ

たり重要な視点

●達成感

- ・自分達で考えて行う内容のプログラムであること
- ・継続的、段階的に行う内容であること
- ・安全管理がきちんとなされていること
- ・子どもを褒めること
- ・能力に応じた指導を行うこと

●学び

- ・失敗を恐れず取り組める内容であること
- ・日常生活に活かせる知識をつけること
- ・自分の住む地域を知ること

●連帯感

- ・異年齢交流を含む内容であること
- ・集団におけるリーダーの存在
- ・力を合わせて活動する内容であること
- ・多少の困難を伴う内容であること
- ・他者への気遣いや多様性を知ること

③ 指導者に必要とされる要素

- ・子どもの自主性を尊重し、必要以上に教えすぎないこと
- ・体験に応じた専門性を備えていること（ホンモノを伝えられる人材）
- ・子どもたち一人一人の特性に応じた対応ができること。
- ・集団を束ねる力が備わっていること
- ・危機管理能力を有していること。
- ・失敗からも学ばせる指導ができること。
- ・子どもと一緒に楽しむことができること。
- ・物事を伝える力
- ・コーディネートする力
- ・ニーズの調整

④ 行政の役割

- ・場の確保（休日の児童会館の活用など）
- ・ニーズの理解
- ・事業の広報
- ・地域差の解消
- ・予算の補助
- ・地域人材の把握
- ・企業との連携

- ・指導者等の手配
- ・ニーズとシーズのコーディネート
- ・事故発生時の責任体制の整理

(4) その他

次回の会議は、3月5日（火）に開催予定である。詳細については、後日事務局から連絡する。